

社会的機能とその尺度について

井出草平

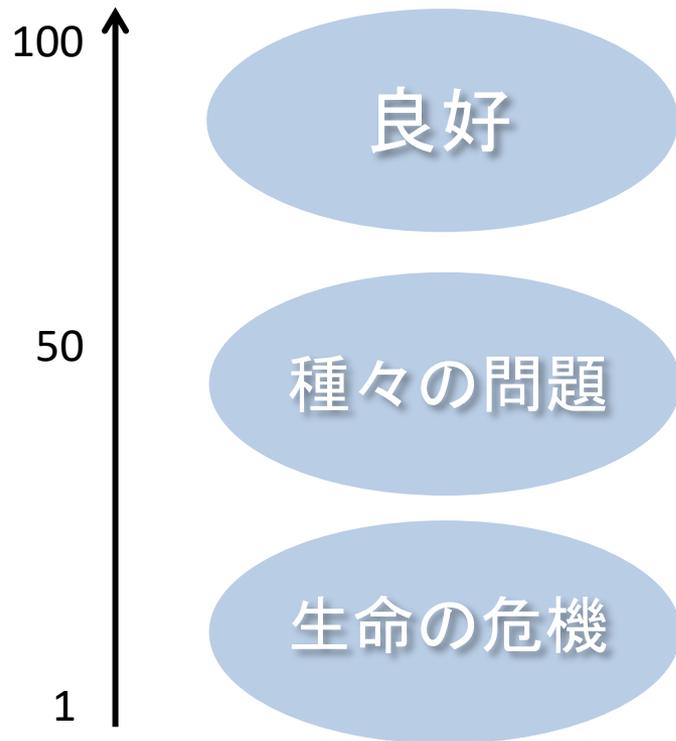
大阪大学

2016/10/08 認知行動療法学会

SOFASとは何か

- SOFAS: 社会的職業的機能評定尺度
- DSM-IVの5軸として掲載されている尺度
- GAFは精神症状と社会的機能のどちらか悪い方を採用する
- GAFの片方の社会的機能だけを分離したのがSOFAS
- SOFASはARMSの診断基準や精神医学の研究で使用されている

SOFAS



種々の問題

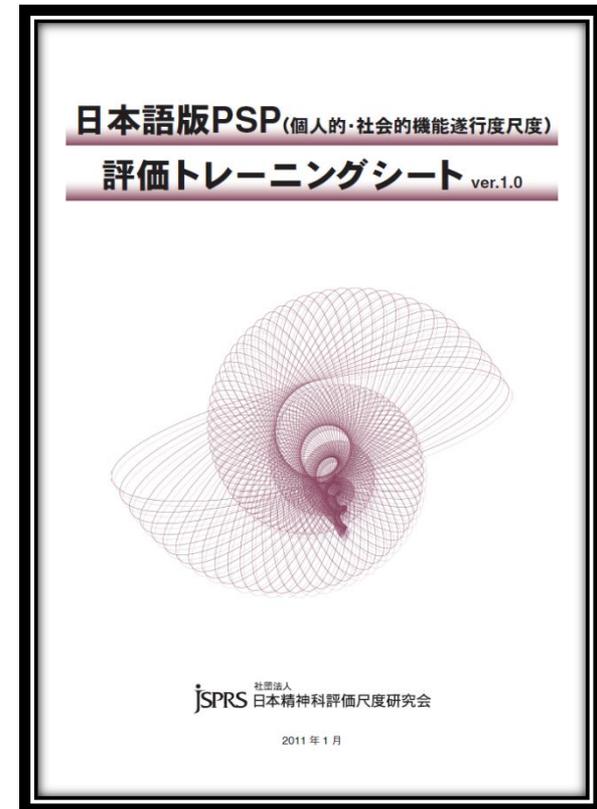
- ひきこもり
- 不登校
- うつで会社を休職
- 強迫症で社会参加不可
など

診断横断的な評価が可能

- ✓ うつ病…HAM-D, MADRS, QIDS-SR, BDI...
 - ✓ 不安症…HAM-A, L-SAS, SPIN...
 - ✓ 強迫症…Y-BOCS, Padua...
-
- うつ病だけであればうつ病の尺度でOK
 - 併存症がある者は珍しくない
 - 複数の精神障害の併存ケースでもSOFASは評価可能
 - 施設や介入者の成績の計測にも向いている

PSP個人的・社会的機能遂行度尺度

- イタリアのPier Luigi Morosiniらによって開発
- 日本語版も作成されている
- SOFASを構造化したツール
- 精神病性障害を主な対象にしている



SOFASを計測する尺度

- SFS-AY社会的機能尺度思春期・青年期版
<http://sfs-ay.org/>
作者: 井出草平・鈴木太
- sSOFAS 構造化評価システムsSOFAS
<http://ssofas.com/>
作者: 井出草平・鈴木太・目良宣子

ウェブで検索して入手・使用が可能
使用許可は不要(ドメイン・フリー, パブリック・ドメイン)

SFS-AYとsSOFASの特徴

	SFS-AY	sSOFAS
構造化対象	PSP	SOFAS
SOFAS計測範囲	11-80	1-100
対象年齢	6~39歳	6歳~
開発状況	終了	継続
アルゴリズム	PSP+オリジナル	オリジナル
妥当性の検討	なし	現在実行中
訓練プログラム	なし	あり
その他		アプリ版の作成

尺度の開発動機

- ひきこもりの評価尺度が必要
 - 民間支援団体は適切な支援をしているのか？
 - 成果を数字で表さないと予算がつかない。一度予算がついても数年で途切れる。
- SOFASやPSPを使えばよいのでは？
 - 現場の支援者が使えなかった
 - …臨床評価の経験がなくPSPの使用が困難
 - 誰でも使える尺度を開発する必要性ができた
 - SFS-AYはそのプロトタイプ

尺度の特徴

- 本人ではなく本人をよく知る第三者からの情報で評価が可能
 - …行動評価のみを行っているため
- 2時間程度の訓練で誰でも簡単に実施することができる
- 本人への介入を行っている人が採点する場合、数分で評価が可能
- 非精神病性障害を対象としている

回復と予後

- 精神障害等から回復する者の願いは精神障害が治ることか／復学・復職など社会復帰することか

…精神障害のアウトカム／社会的機能のアウトカム

- 疾患特異的な予後

例:境界性パーソナリティ障害

30～40歳で(陽性)症状は低減するが、その後は社会的機能が低下する。Parisら(2001)など。

Paris, Zweig-Frank, Compr Psychiatry. 2001, 42(6).

評価項目

行動のみを評価する

- 社会的行動(就学・就労・家事状況)
- コミュニケーション(友人や他者との会話)
- 家族関係(対立や無交流)
- セルフケア(体を洗う・排便の処理など)

評価しないもの

心理状況・認知・精神症状・身体障害

(認知が改善しても行動に移されないと評価されない)